

## 近代国家と大衆文化

Modern Nations and Popular Culture

総括研究員：桂川 光正

分担研究員：藤永 壮 原田一美 藤原康晴 倉橋幸彦

本共同研究は、近代における大衆文化と国家との関係を、世界史的な視野から総合的に把握することをめざすものである。国家権力が、文化を自らにとって望ましい規範の中に押し込めようとする現象は、洋の東西や時代を問わず広く見られるものであるが、近代消費社会における大衆文化の成立は、国家と社会との間に、前近代とは異なる性格の緊張関係を生み出すこととなった。近代国家権力は、国民統合をめざす価値基準に則って文化統制を進めるが、これに対して社会の側では、ある場合には国家の圧力に反発してこれに抵抗し、またある場合には国家の意向に沿う形の文化を出現させる。つまり、近代国家と大衆社会との間には、ある緊張を伴った相互作用、相互規定関係が存在すると言えるのである。従って、このような両者の相互関係を明らかにする作業は、大衆社会の特質、ひいては近代国家の構造を究明する上で、重要な構成要素をなすものである。

本共同研究プロジェクトはこうした趣旨の下に、各研究員が下記のような研究課題を設定して発足した。

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 桂川光正 | 阿片をめぐる国家と大衆              |
| 藤永 壮 | 植民地朝鮮における大衆文化の成立と風俗      |
| 原田一美 | ナチズム下における大衆文化            |
| 藤原康晴 | 中国における妓女院とそれに関わる政策       |
| 倉橋幸彦 | 1920年代上海の娯楽場；「大世界」と「新世界」 |

1997年度は初年度であるので、各研究員がそれぞれの研究テーマに関して、これまでの研究蓄積や最新の研究動向、基本的参考文献などを紹介して、知識の共有を図り、研究の軸を明らかにすることに努めた。

研究員間の問題意識のズレが比較的大きいのがわかったことや、これまで二回の共同研究プロジェクトの反省に基づいて、研究テーマをもう少し絞り込みつつ様々な方向からアプローチする方がよいのではないかとの結論に達した。そこで、次年度はテーマをもっと狭く設定すると共に、新しいメンバーを勧誘して、真に共同研究の名に値する研究会としたい。